



令和7年8月23日（土）、十和田市の一本木沢ビオトープにて今年3回目となる自然体験学習イベント「水の中をのぞいてみたら」が開催されました。今回も北里大学の協力のもと、一本木沢ビオトープに生物を捕獲する仕掛けを設置しました。

昨年は仕掛けの回収中に強い雨が降ってしまいましたが、今年は天気に恵まれ、参加者は捕まえた仕掛けから持ち帰り用のタライに移しながらゆっくりと観察することができました。



【北里大学の筏井先生による講義】



【集合写真】

まずは十和田東コミュニティセンターで北里大学の筏井先生からビオトープの役割についての講義が開かれました。

一本木沢ビオトープには一つの池の中にも様々な環境の区画がいくつも存在します。葦が生えている場所、水草が多い場所、ごつごつとした岩場が多い場所、水底が泥になっている場所などがあり、そういった区画を「エコトーン」と呼びます。エコトーンの境目には生き物がたくさん集まり、多様な命が育まれる大切な場所です。このつながりが自然を豊かにしてくれます。



【人工的に設置されたエコトーン】
ブロックを沈めている

昨年は大きな池の生物を捕獲するために地引網を使用しましたが、今年は水源を同じくする沼池に生息する生き物を捕まえ、比較するためにかご畚を使用しました。かごの入り口が返しとなっており、中に入った生き物が外に出にくい構造となっています。これをビオトープの池に5つ、沼池に4つ前日から設置しました。



【設置した仕掛け】

ビオトープの池に設置したかご罟にはジュズカケハゼとヨシノボリが入っていました。どちらも岩場の影など隠れ家となる隙間が多い地形を好む傾向があり、一本木沢ビオトープでもっとも見かける魚類となります。今回は捕まえることができませんでした。一本木沢ビオトープではワカサギの生息が確認されています。これはため池型のビオトープでは大変珍しく、水源に十和田湖を持つ稲生川の水が流入しているためと考えられています。

そして同じく稲生川を水源とするビオトープ池近くの沼池では、一つのかご罟に何十匹もの大きなドジョウが入っていました。ドジョウは水底が泥状になっている環境を好みますが、あまりにもたくさん捕れたため、参加した子供たちからは悲鳴交じりの歓声が上がっていました。



【ビオトープ池に設置したかご罟】
ヨシノボリなどの魚が捕まった

【沼池に設置したかご罟】
たくさんのドジョウが入っていた

現地での観察だけでなく、一部の生き物はコミュニティセンターまで持ち帰って観察をしました。かご罟で捕獲した生き物以外にも網で捕獲したトノサマガエルやアマガエル、ガムシやコウイムシなど、様々な生物の体の造りの違いなどを比べていました。また北里大学から借りた顕微鏡を使って目に見えない小さな生き物も観察することができました。

同じ水の中の生き物でも、周囲の環境によって住んでいる種類が大きく異なります。参加者たちはそのことを実際に捕まえて比べることで体験することができました。



【顕微鏡で観察する様子】

次回の一本木沢ビオトープ親自然体験は8月30日（土）で、トンボ観察会です。詳細は十和田市広報誌「広報とわだ」7月号をご確認ください。

<https://www.city.towada.lg.jp/shisei/koho/kohotowada/files/202507all.pdf>

関連事業：県営一本木沢地区農村振興総合整備事業（H9～16）